

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児指導法演習 I Method of Teaching Children with Disabilities I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
障害児保育 I II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
小竹利夫		講義棟 2 階	月・火・水・木の8時～18時	授業中に指示します
授業の概要				
障害がある子の気持ちを理解した上で、障害がある子がより良い生活を送れるように保育や支援の仕方を具体的に学ぶ。また、おもちゃや教材を手作りする。				
授業の目標				
①人の行動の奥にある気持ちを見ることの大切さを理解し、その視点を身につけるようにする。 ②子どもの目線に立つことの意味を理解し、子ども一人ひとりに合わせた保育をできるようにする。 ③様々な障害がある子に対して、気持ちに寄り添った支援をできるようにする。 ④おもちゃや教材の意味を理解し、自ら製作できるようにする。				
授業の方法				
文字資料やV T R映像を使って事例を紹介し、障害がある子の見方や対応の仕方の学習を具体的に進める。毎回、小レポートを提出。また、おもちゃや教材を手作りする。				
学習の成果（学習成果）				
①人の行動を通して、その意味や気持ちを理解する視点を持つことができる。 ②子ども一人ひとりの目線に立った保育をすることができる。 ③様々な障害がある子に対して、気持ちに寄り添った支援をすることができる。 ④障害がある子の発達を促すおもちゃや教材を製作することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。（授業の内容：進め方：評価の仕方）			
第2回目	乳幼児の言葉の発達（誕生から1歳）。子どもがコトバを獲得していく映像を通して、様々なコトバの育ちを学ぶ。			
第3回目	乳幼児の言葉の発達（1歳から1歳7ヶ月）。子どもがコトバを獲得していく映像を通して、言葉を話す条件を学ぶ。			
第4回目	手作りおもちゃや教材を紹介し、子どもにとっておもちゃや教材の意味を学ぶ。			
第5回目	おもちゃ・教材作り①。（はめいたパズル他）			
第6回目	障害がある子に対する援助の仕方を学ぶ。（行動の意味を理解する）			

第7回目	障害がある子に対する援助の仕方を学ぶ。（真似る・共感する）	
第8回目	おもちゃ・教材作り②。（キラキラペットボトル他）	
第9回目	障害がある子に対する援助の仕方を学ぶ。（様々なコトバによるコミュニケーション）	
第10回目	障害がある子に対する援助の仕方を学ぶ。（こだわりへの対応・気持ちのコントロール）	
第11回目	幼稚園での教育実習での気づきや学びを省察する。	
第12回目	保育所での保育士の対応から言葉の掛け方や接し方を学ぶ。	
第13回目	おもちゃ・教材作り③（文字教材他）	
第14回目	障害児・者施設での職員の対応から言葉の掛け方や接し方を学ぶ。	
第15回目	実習でのエピソードから言葉の掛け方や接し方を学ぶ。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。おもちゃや教材を自ら考えて、熱心に作製する。
レポート	70%	授業の中でレポートを書く。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。1回5点満点で計14回。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「子ども達の思いを探して」（小竹利夫）。 参考資料：「実習での心の育ちあい」（小竹利夫）。その他、適宜資料を配布。		
履修上の留意点・ルール		
私語禁止。飲食禁止。		